『心を育てる教育』講演会

父兄や先生ら220人が聴講

六月二十二日、市教育委員会などが共催で、北海道にある我が国唯一の男子教護院「家庭学級」の校長先生として活躍する谷昌恒氏を招いて、「心を育てる教育」と題して講演会が、社会福祉センターで行われました。

谷先生は、教護院での取り組みを交じえ、子供たちの考え方や教育の問題点など、約二時間にわたって熱っぽく語り、約二百二十人の参加者も熱心に聞き入っていました。

講演内容は――

教護院には、いろいろな問題を起こした子供たちがやって来ます。私たちにとって、少年がしたことつまり形に現れたことは問題ではなく、どうしてそういうことをしたのかが一番の問題です。子供たちの気持ちを、きちんとくみ取ることが私たちの仕事です。物を見る目でなく心を見る目で、子供の心を見、心を聞く耳で子供の心を聞くことです。

人間の心は不思議なもので、その扉は内側だけにしかありません。子供たちが自然と、心の扉を開くにはどうすれば良いのか。まず一つには、こちらが本当に心を開いていくことが必要です。

人間は受け身である限り、不平不満は尽きないもの。豊かさの中で今、子供たちは満たされることがなくなってしまっています。そんな子供たちの受け身な姿勢を、主体的な大人の生き方に変えてゆかなければなりません。

私は、親を子供に近づけ、子供を親に近づける、仲立ちの役目をしています。本来これは、向こう三軒両隣と言われるように、近隣社会が果たしていた部分も多くありますが、今はそれもなくまさに社会は心の砂漠です。

そういう中で、子供たちとどう接していけばよいのか。

そのためには、子供たちの認めるべきことは認め、目を開かせるべきことはきちんと教える、つまり「半分認めて、半分宿題として出せる」ような大人に、私たちがなっていくことが、必要ではないかと思います。

家庭学級の体験を基に、子供たちの考え方を熱っぽく語った

6チームが参加し

～熱戦～

◆第1回市綱引大会◆

市綱引連盟主催（中村隆洋会長）主催の第一回市綱引大会が六月十六日、六チームが参加し開かれました。

昨年は三和体育会（現在は太平洋クラブ）、今年は十市農協と、県大会でも二年連続で優勝しており、綱引き競技をもっと広く知ってもらい競技人口を増やそうと、今回初めて行われたもの。参加は、六チームとやや少なめでしたが、地域や職場、学生と楽しい仲間が熱戦を展開しました。

綱引きは力もさることながら、チームワークが重要。審判の「レディーゴウ」の合い図で、足を踏んばり後傾姿勢になって引っぱると、綱はピンと張って一瞬静止状態。それぞれ力の込もった顔に、監督が「こらえて、こらえて」と指示し、そして合い図で一気に「ヨイショ、ヨイショ」と引っぱります。

試合はリーグ戦で行われ、先に二勝した方が勝ち。法被姿で参加しち高知高専の学生は健闘惜しく五位で、やはり優勝には実力県下一の十市農協が輝きました。

開会式のあいさつで中村会長は「来年は一部、二部を設け、またぜひ女性チームの参加もしてもらい、より盛大な大会にしていきたい」と話していました。

なお成績は次のとおりです。

①十市農協②太平洋クラブ③中田クラブ④全通A⑤高専クラブ⑥全通B

力いっぱい綱を引く選手